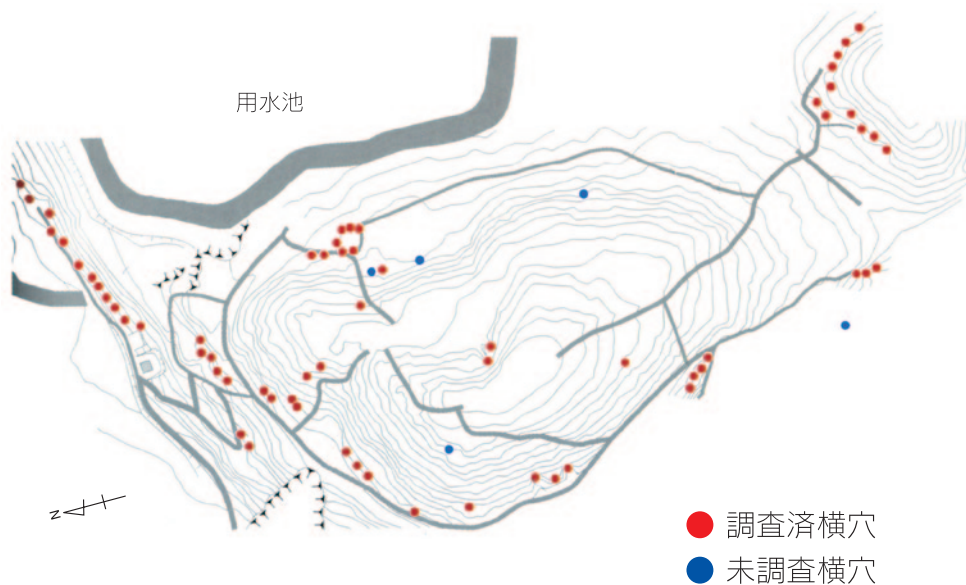


法皇山横穴古墳群全測図



法皇山横穴古墳群入口の様子



法皇山横穴古墳群 A グループ近景



18号横穴墓玄室内

横穴の分布は大きく五グループに分けられ、北側の低い位置に作られたグループが最も古く、規模も大きな横穴が並んでいます。

法皇山に葬られたのは、一般の庶民ではありませんが、豪族というほどでもなく、村長クラスの家族墓と考えられています。出土遺物にはわずかに金環や銀環・直刀も出土していますが、最も多いのが須恵器で、器種は大甕・壺・平瓶・提瓶・横瓶・長頸瓶・高坏・蓋坏・坏などが出土しています。基本的に日常使われていたものと同じで、当時の食生活を知る上で参考になるとともに、当時の人たちが死後も生前と同様の生活をすると考えていたことがわかります。

古墳時代後期になると、凝灰岩の岩山がある地域では、横穴墓が発達しました。勅使町の法皇山はその典型的な例で、現在八〇基が開口しています。未開口を含めると、全体では三百基を下らないといわれています。構造は、入口から羨道といわれる通路があり、最も奥に棺を納めた玄室があります。玄室の手前に前室を備えており、お供えの土器などはこの前室に置かれている場合が多く、恐らく前室で葬祭が行なわれたのでしよう。この構造は『古事記』に記された黄泉国の世界を彷彿とさせるものです。

玄室の平面は奥に長い長方形で、最も奥に棺を安置する一段高い棺台が設けられています。断面はアーチ形・ドーム形が多く、わずかに家形もあることから、横穴墓が死後の家という認識があったのでしよう。

